

# ぐるっと

GURUTTO

2014.08  
vol.09



巻頭特集

## 色和衣

irowai

ここに注目!!  
今回の読みどころ

町の風景はいつもと変わらないのに、その中に着物姿の人がたたずむことでちょっと違った景色に見える。でもそれは決して不自然ではなく、町に溶け込んだ一つの風景となり凛とした空間を作り出す。着物の似合う町「古川」。今回は、日本一着物の似合う町をめざす「色和衣」取材してきました。



エコで環境にやさしい植物油インキや、古紙を100%使用した紙を使用しています。



## 色和衣メンバーの つながりときっかけ。

10年余り前に、八ツ三館の池田理佳子さんが「タビエル」というホームページサイトで温泉宿の宿泊レポートを書いている丹羽尚彦さんの存在を知ったそうです。丹羽さんの撮る写真はどれも吸い込まれていきそうな純粹な写真が多く、とても感銘を受けたそう。そして、ぜひとも八ツ三館のホームページを作成してほしいという願いに応えてくれたことが、つながりのきっかけとなりました。その数年後、染めと呉服大洞の大洞優子さんが、商工会の支援の一つ「エ

キスパートバンク」を利用してホームページ作成指導をお願いした際の講師が、丹羽さんでした。こうして、もともと同級生だった池田さんと大洞さん、そしてホームページ作成を通じて知り合った丹羽さんの3人がつながる形となりました。そんな3人は、自然と共通な話題を持ち、話を重ねる中でこんな構想ができたがありました。

## 夢を語りあう中で生まれた ものが「色和衣」

「色和衣」とは、飛騨の小京都古川の町並みが着物や浴衣姿で賑わっている

たら、きつとステキだろうな。用水路に沿って並ぶ古い町並みに浴衣姿で歩いてみたい！そう心に思い描き作り出した、日本一着物姿が似合う町を目指す草の根運動なんです。

## 着物を着る機会・きっかけ を作ってあげること。

この活動ですが、実は「もったいない精神」が根源。きつと、どこのご家庭にもタンスに眠っている着物があるはず。昔着ていたおばあちゃんやお母さんの着物や浴衣を、眠らせたままでほもつたない。そして何ととってもお金をかけずとも、タン

スから引っぱり出してくるだけ。あとは、着物を着る機会・きっかけをつくらせてあげること。その部分が「色和衣」なんです。

じゃあ、せっかく着物を着たんだから、風情ある八ツ三館の一角で、また古川の数ある風景の中で写真に残そうじゃないか。という結論になりました。

## 一般公募から生まれた ネーミングは造語。

「色和衣」ってネーミング、すっごく素敵でしょ？実は、Facebookでネーミングを募集。「古川の町と着物のイメージ」をテーマに、多くの方が案をあげてくださったうちの一つなんだそうです。名付け親は、恥ずかしながら顔も名も知らない男性の方。誌面を利用して御礼を・・・(笑)。素敵な名前を付けていただき感謝です。と、お二人。

着物美人のお二人は、小さなころから着物や和に縁のあるご家庭で育ちました。そんな二人にとって、着物とはどんなイメージか尋ねてみました。

「祭りの時に着せてもらったことがすごく印象に残っています。あとは夏の花火や七夕のときに、兵児帯(きんぎょみたいな帯)を締めてもらい浴衣を着たかな。周りから「かわいー」とちやほやしてもらえたのが、とてもうれしく心地よかったです。」(笑)

「普段、着物を着るってことがなかったから、晴れの衣装ってイメージがありました。」

勝手な想像とは違い、ほんとうに普通の人たちと変わらない子供時代だったようですね。

# 和衣

以合う町プロジェクト ~いろいろい~







### 着物を着るよう勧めたのは、同級生の池田さん。

やがて大人になり、池田さんは仕事の大部分に着物が関わるようになり仕事着として着るようになりました。一方、洋服姿がほとんどだった大洞さん。着物を着るようになったきっかけは池田さんのある言葉でした。「せっかく素敵な着物を提供するお店をしているんだから、自店の商品をどんどん着て「素敵でしょ？」って示さないよ。あのお店行くと素敵に着物があるよ」と、自ら歩いて宣伝しなくちゃ。」と背中を押してくれたそうです。こうして大洞さんも

仕事として着物を着るようになり、自然と普段着になっていったそうです。

### 「色和衣」は、今年で4年目。

最近では町の人から「色和衣で何かやるの？」と言葉をかけて頂けるようになったそう。始めた頃は町の人たちから「着物で何かするんだって」という程度の意識だったのが、こうして「色和衣」と呼ばれるようになったのは有りがたいことに町に浸透してきた証拠でしょう。「いいことやってるね」と声を掛けられたときは、ほんとうに励みになりました。

Kimono project  
Hida-furukawa irowai

# 飛騨色 古川

日本一着物姿が似合



た。と、大洞さん。町の人に評価してもらえたこと、それがさらなる活力となって新しいアイデアを生み出しているようです。

### 着物や浴衣を着て町に出かけてみよう。

現在、色和衣の活動として古川祭や三寺参り、きつね火まつりと夏のイベントなど四季を通じ「着物や浴衣を着てみよう」と呼びかけています。昔からある古川の文化や守り続けてきた行事を大切にしながら、町の人たちに着物や浴衣姿で参加してもらえたら。そして活動が広く知られる

ことよって、町外からのお客様も呼び込めるきっかけとなるのでは、と期待を寄せています。

### 旅先で着物を着れる町、飛騨古川。

最近着付け教室のCMやチラシを多く見かけます。それは習いに行きたい人や実際に習いに行っている人がいる証拠。でもその人たちが着物を着る機会といえば、お稽古の時か着物仲間でお茶をする程度でなかなか機会がないはず…。だったら、そういう人たちに古川へ旅行に来てもらい、旅先で着物を着てもらおうというのはどうでしょう。古川に訪れてから着物に着替えるというスタンスで、着替える場所の提供や古川の町並みを背景に写真撮影のサービスも喜ばれるのではないのでしょうか。もちろん、手ぶらで行って着物レンタル&着付けができるサービスなど、現在は不定期で行われているものを常に提供できる体制を整えていかなければいけないでしょう。古川の町は、アミューズメント化した観光地と違って、もともと居住している町に観光客が訪れるため、町の人にとっては、普段の生活の中で自然な声掛けやおもてなしができる町だと思います。古川の人はそのような人情をもっている人ばかりですよ。







古川祭 2014 色和衣フォトコンテスト  
グランプリ「小粋な娘さん」 photo by. kazaari



三寺参り 2014 色和衣フォトコンテスト  
グランプリ「楽しいお姫様」 photo by. マル



きつね火まつり 2012 色和衣フォトコンテスト  
グランプリ「お玉止メテ」 photo by. yokonyan45

## 悲しい結果や 厳しい現実もありました。

以前、着物で町へ出掛けるとお店でお得なサービスや特典が受けられる企画を開催しました。しかし2年位で辞めざるをえませんでした。賛同してくださるお店が少なく、せっかくながら来客されず待ちぼうけ。最後は尻切れトンボな終わり方になってしまった状態……。何かを起こすとは、なかなか難しいことですが、町の人たちや商店の人たちのちよつとずつの協力がとても重要だと思えます。例えば毎月決まった日には着物で過

ごしたり、着物を着て店頭に出てみる。とか。たまたまその日に来てくださった観光客やお客さまがビックリする。お金をかけず、今ある着物を着ることです。すぐできる地域活性ではないでしょうか。「銀行に行ったら、窓口の人も着物だったよ」とか「八百屋さん行ったら着物着て店先にみえたよ」など町の人たちが着物で仕事をしていたら……。着物姿を見て回るだけでも楽しそう。そして「着物姿が見られる町」として話題となり行ってみたくなる。着物を着てみたくなる。そんな思いになるような古川の町を目指してみえます。

## いつか実現したい夢。

フォトコンテストも開催している色和衣。将来的には、色和衣の写真集を作りたいそうです。昨年、銀行等の協力により街角ギャラリーを開催し、多くの方に見て頂けました。町の風景と素敵な着物が融合した写真をもっと多くの人に見てほしいです。そして今、facebookのつながりによって日本はもとより、イギリスなど世界にも広まりつつあります。これからはますます目がはなせません。

「着物で町を埋めつくしたい」  
そう願う日々奮闘してみえます。



**丹羽尚彦さん**：旅館専門のウェブ制作が生業。古川で出会った全員が着物にまつわる人で、「こは着物パラダイスか？」と勘違い。さらにカメラ仲間たちがネットにアップしていた古川の着物写真に影響されたのが色和衣のはじまり。

**大洞優子さん**：染めと呉服大洞にて、着物や小物などを販売。着物や浴衣のレンタルや着付けも。

**池田理佳子さん**：老舗旅館八ツ三館の若女将。宿カフェやライブなどの催しも企画。

お寺で浴衣ショー  
Kimono event  
Hito-fukuroi Irowai  
**8.7**  
飛騨色和衣  
in 円光寺

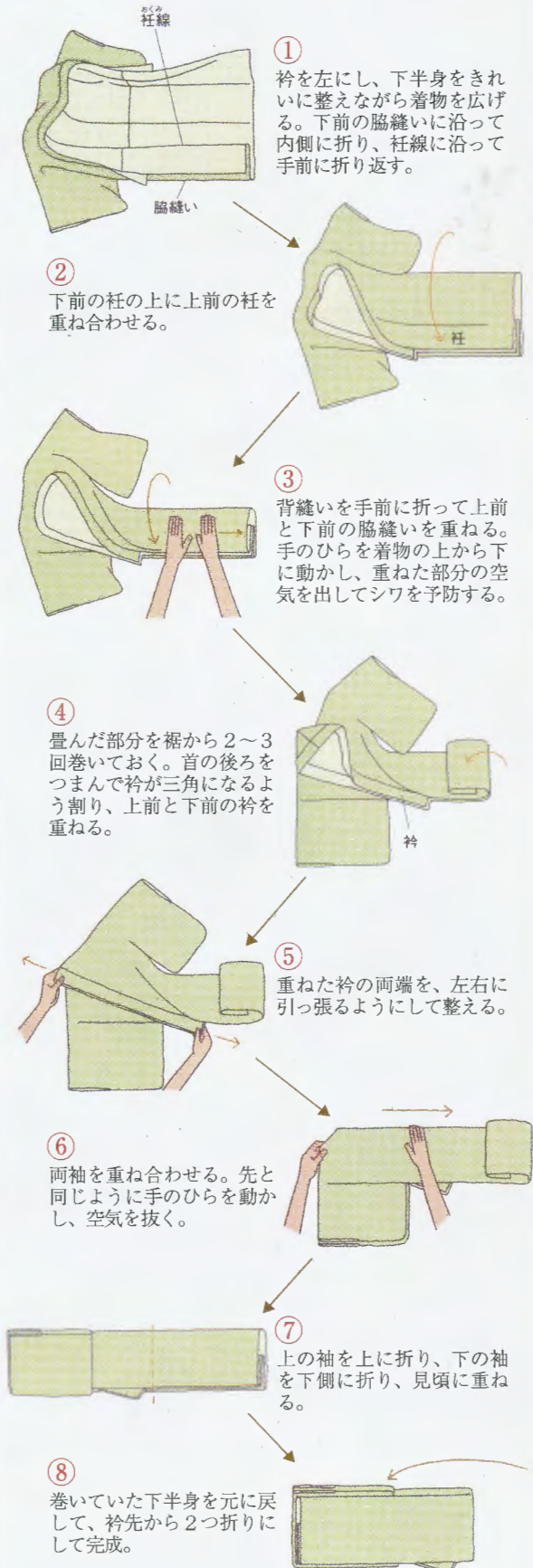
この夏、色和衣は新しいチャレンジをする。キッズや一般の出演者による浴衣のファッションショーがある他、縁日や、浴衣の着付け&レンタル、バンド演奏や紙芝居なども。きつね火まつり、三寺参り、古川祭もチェック！

色和衣 検索 <http://irowai.jp/> facebook やってます



## 着物のたたみ方

着物の基本的なたたみ方です。浴衣もこの方法でたたみます。(豪華な装飾の留袖や振袖以外)



### ●70代夫婦 (小売店)

着物のイベント? いいことだと思うよ。浴衣なら着れるので着てお店に立とうかな。タンスに着物や浴衣がいっぱい眠っているから、そういうイベントで生かしてほしい。

### ●20代女性2人 (うち1人は色和衣参加者)

着物を着る機会って本当はないので、色和衣のイベントはすごくいいことだと思う。日本人は民族衣装を一番着ない国だと何かに書いてあった。もっともと思った。子供のころは特別な日に着るものってイメージだったが、もっと普段から着れるようになればいいな。男の人なら甚平もおしゃれ。

### ●70歳女性 (飲食業)

若いころは祭りや花火で着る機会があったが、いまは全然着ないですね。着る時といえば、親戚の結婚式か法事か...

昔は親が子供に誂えてやったものだが、今はそんなこともそうない。最近習いに行っている人が周りにみえるけど、着る機会がないと忘れてしまいそう。(笑) 浴衣なら気軽に自分でも着れそうだし初心者でも袖を通してもらいやすいのでは。

### ●70代男性

自分は着れないけど、着物を着てる人を見るのはわくわくする。写真を撮ってもらえば記念になるし嬉しいだろうな。

### ●10代女性 (大学生)

着物って特別感がある。何かの大切な時に着る物ってイメージ。歩きづらいし、トイレに行きにくそう。だから毎日着たいとは思わないな。大人っぽい落ち着いた柄とか素敵♥でも若い子しか着れないような大胆な柄もいいかも。作り帯もあるから自分でも着れるようになった。

### ●60代女性

タンスにいっぱい着物があるから、そんな素敵なイベントがあるなら、いくらでも貸し出しますよ。以前、滋賀県黒壁スクエアへ行ったとき、たまたま一日みんなが着物を着るイベントをやっていて、とても目を引くものだった。観光客に印象づいたのでは... 商店街の人も浴衣や甚平を着て店に立てばおもしろいと思う。それを見た観光客は、帰ってから口コミで広めてくれるでしょう。活性化につながることは、どんどんやってみようよ。

### ●50代男性

民族衣装なのに着てる人いないなあ。浴衣ならとっかかりやすいでしょう。花火大会や祭りで着物姿を多く見かけるようになった。「色和衣」の効果あると思うよ。タンスの肥やしになっている着物をもっと地元の若い子にも着てもらえるようになるといい。子供の浴衣姿って見てもかわいいから、浴衣を着させて兵児帯締めてぜひ町へ出かけてほしいな。ママ会や保育園の集まりなどで、浴衣を勧めてみるとすんなりと入り込んでいけるかも。着物にとらわれず甚平もOKでしょ。門を広げて(笑)

### ●40代女性 (まちゼミで着物を着せてもらった)

普段着ることのない着物を着せてもらえ、それだけでわくわくだった。いつも大股で歩くのに、着物を着ている間はしっかりと歩いている自分がいた。(笑) せっかく着物を着たんだから誰かに見てほしい! 願望が出ますね。着ている自分が粋で素敵だと思えました。ぜひ、また着物を着たいです。